

OPINION

# 大学、そして その先へ

本当に大切なことは、大学で完結することではなく、その先の社会とどうつながるかということ。今回のかがアドオピニオンでは、大学と、その先の未来をどう見据えるかに焦点を合わせ、具体的な取り組みを行っている3人の先生を紹介しします。

思考も人もつないでいく

## 神吉直人

### PROFILE

かんき なおと  
経済学部 経営システム学科  
准教授 経済学博士  
専門分野:技術経営  
ネットワーク分析

### 神

吉准教授の研究テーマは、「技術とデザインの統合」や「ネットワーク分析の経営学への応用」です。

「でも人と人との関わりに関心があります。それに加えて今は暗黙知と言葉にならないことや抽象的な概念をどのように経営学の中で扱うか、ということを考えています」。そんな神吉准教授のセミナーは、昨年夏、香川オーフガイブライズのゲームで「観客動員数と客単価を増やす」という経営的な試みのあるイベントを行いました。

私はなるべく口出しをせず、企画も運営も球団との折衝も学生中心に行いました。目標達成のために自分たちができる事を企画に落とし込み、少しずつ形にしていってんです」。授業で言う経営理論も、抽象的事項を多く含んでいます。それらの理論を具体的な出来事にあてはめていくのが神吉准教授の授業のテーマです。ガイナースのイベントも「抽象的思考の応用」の試みのひとつでした。

「眼前」考えたロジックが通用しないという当たり前を学生たちは経験したと思います。同じで、仮にMBA経営学修士を取ったとしてもそこで習った理論通りに事が運ぶことは滅多にありません。でも、理論が全く役に立たないわけではない。理論の枠組みをそのまま使うのではなく、その理論の背景にある思考の軌跡までしっかりと追ひ、考えることが大事なのです。だから学生たちにも、抽象的な事を自分で考える大切さを知ってほしいと思います」。

一方、現場ならではの成長も実感できたはず、と続けます。

「現場に立つと、本人が意識しなくても五感が活性化します。すると通常の講義以上に言葉にならないインプットが増えます。それもまた重要なことですね」。

大学院生時代に、アルハイトで雑誌編集に携わり、神吉准教授もたかさんの取材現場を経験しました。

「編集の仕事では、日々新しい出会いがありました。それらを活かすためにはとにかく主体的に臨むことが大事だと思いました。目の前の事柄と自分の手持ちの情報を関連づけるなど、意識的に頭を働かせる必要があります。学生には将来の出会いを突くものにしてもらうためのトレーニングとして、授業の時は自分の興味との関連を探るようにと言っています」。

まさに編集は「結びつける」仕事。神吉准教授は、香川も香川大学も、コンパクトサイズで人と結びつきやすいところが好きだと言います。先のガイナースのイベントも、球団の副社長と仲良くなったことで立ち上がった企画でした。

「人とつながるには何か行動を起す必要があります。と言うと大変そうだけど、実は簡単。1本電話をするとか、ある会合に出席するとか誰かに声をかけるとか、その程度のことです。1歩目を踏み出すと、後はほとんどつながっていくから不思議です。ね。0から1」と「1から2」は、等距離じゃないんです」。若い時に誰とつながるかによって人は変わる、と先生は言います。

あなたが今日出会う人は、あなたの未来を変えるひとつのつなぎになるかもしれません。

# 堤英敬

## 公務員をめざす人のための政治学講座



PROFILE

つつみ ひでのり  
法学部 准教授  
法学修士  
専門分野: 政党研究  
投票行動論  
選挙公約の研究

**景** 気の低迷が続く中、安定した就職先として脚光を浴びる公務員。香川大学の法学部・社会設計コースは、行政の最前線で働く公務員に大切な「政策マインド」の獲得を目標としています。先生、この「政策マインド」って、一体、何なんですか？

「広く世の中に目を向けて社会に潜む課題を発見し、その原因を理論的に特定、解決策を立案するというのが政策マインドです」と答えるのは、法学部の堤准教授です。

高校で学ぶ政治経済とは、勉強することばかり違うようですね。

「政経では、仕組みや特徴など、日本の政治の基礎的な大枠を学んでいきますよね。大学では、今現在の政治や政策など、答えが定まっていない事柄に答えを見出そうとします。そうする中で、行政の現場に立つための知識や考えが身に付いていきます」。

「公務員になるために、学校の勉強以外にして欲しいことが2つあります」と堤准教授。ひとつは、本をたくさん読むこと。もうひとつは、学外に出て様々な「現場」を経験すること。特に、行政や政治の現場を学生の立場で経験して欲しいと言います。

「公務員になるとできない、選挙のボランティアはどうでしょう？ 難しいと思う人も、多く人が、日々苦勞することでも成り立つんだと実感すれば、見え方が変わります」。

選挙は、堤准教授の研究分野のひとつでもあります。

つてもあります。政党と有権者の政治的な立場の一致度を測る「ポイント（＝投票マツチ）」の制作にも携わりました。

「外交、社会保障、経済、環境など、20くらいの質問に答えると、自分と考えの近い政党が分かるというツールです。政党や政策に興味を持ち、考えるきっかけ作りになりますよね。ただ、ある政策に対して、各党でゴールの場所が少しだけ違うとか、ゴールは同じでもやり方が違うというものは、このツールでは設定できない。実際の政治は複雑で、ときに不合理なものだから」。

行政に関しては、「ふわふわしたものと感ずることは、よくあるそうです」。

「例えば介護ひとつとっても、経済状況や社会的な認識の変化で、10年前とはやるべき政策が違う。また、選挙で選ばれたリーダーが指揮をとるから、トップが変われば、公務員のやることは180度変わることもある」。

行く先も分からないまま走り続ける公務員って、タイヘンな仕事ですね。

「でも、答えがない、定まらないところは、面白味もあります。自分の政策マインドを大切にしつつ、柔軟性を持ってバランスよく状況に対応できる。これからの公務員には、そのような資質がより求められると思います」。

世の中が不安定な時代に、行政の役割はより重要になります。鍛えられた政策マインドが、香川を、日本をより良くしていきます。

# OPINION 大学、そしてその先へ

## 2013: a space odyssey 2013年 宇宙の旅

# 能見公博



PROFILE

のうみ まさひろ  
工学部 知能機械システム工学科  
准教授 工学博士  
専門分野: 宇宙遠隔操作に関する研究、テザー宇宙ロボットに関する研究、月・惑星への軟着陸技術に関する研究、超小型人工衛星の開発

2

009年、能見准教授と学生が、西日本の大学で初めて手作り衛星を打ち上げ、運用に成功したニュースは、香川を明るくしました。衛星の名は「KUKAI」。現在は新たに、後継衛星のSTARS-IIを研究・開発中で、JAXA宇宙航空研究開発機構の相乗り衛星として、2013年度に打ち上げが予定されています。

「KUKAIは①ロボットである、②親機と子機の2機がセットになっている、③2機を繋ぐテザーという紐を伸縮させる、という3つの特徴を持つ衛星でした。STARS-IIはそれを踏まえ、最大5mだった紐を300m程度まで伸ばし、そこに電流を流して、燃料を使わずにテザー宇宙ロボットを移動させる世界初の実験を行います」。

宇宙空間にプラズマ状態で浮遊している電子を集めて紐の中を移動させて、紐の先端に繋がる衛星から電子を出す。と、紐に電気が流れる、というのが、その仕組み。

「この方法でテザー宇宙ロボットを自在に動かしたい問題になっている宇宙ゴミ除去のための衛星を開発する、というのが現在の目的です」。

壮大なミッションを達成する現場で、いま学生たちは何をしていますか？

「5、6人は実際に衛星を作っています。地元企業に基板やソフトを作ってもらって、それを手作業で統合するんです。さらに、トレーニングとして空き缶サイズの衛星を作る「Cansat」という競技に参加

している学生も数人います。KUKAIの時には、衛星プロジェクトのマネジメンを学びたいという学生もいました」。

知識を学ぶことは当然ながら、学外の人と関わる中で、ビジネスマナーや交渉術など、社会に出て役立つスキルも得られていると言います。もちろん高度に専門化した現場ですから失敗もつきもので、叱られるが、挫折しながら、成長していきます。

先生、来年入学する新生が参加するなんて、甘いですか？

「基本的には大丈夫。ただ、かなりの知識や能力が求められるから、一生懸命勉強してもなかなか追いつかなくて、続かなくなる人もいますよ」。

「宇宙って美しい」という憧れの気持ちは、みんなあると思うんです。「宇宙衛星をチームのみんなと成りさせたい」と、結果に対する強い思いを持つ人もいます。でも粘り強く続けるには、それ以外にもうひとつ、自分本位の動機があるといいたい。衛星を自分の研究テーマにしたいとか、組み立て作業が大好きとか、プロジェクト管理は燃えるような、これをやっていると楽しくてしょうがない、という「好きなこと」のある人が、結局は長続きしているように思っています」。

自分だけの好きの気持ちを持つって、衛星を宇宙へ飛ばす旅へ、あなたも香川大学で参加してみませんか？